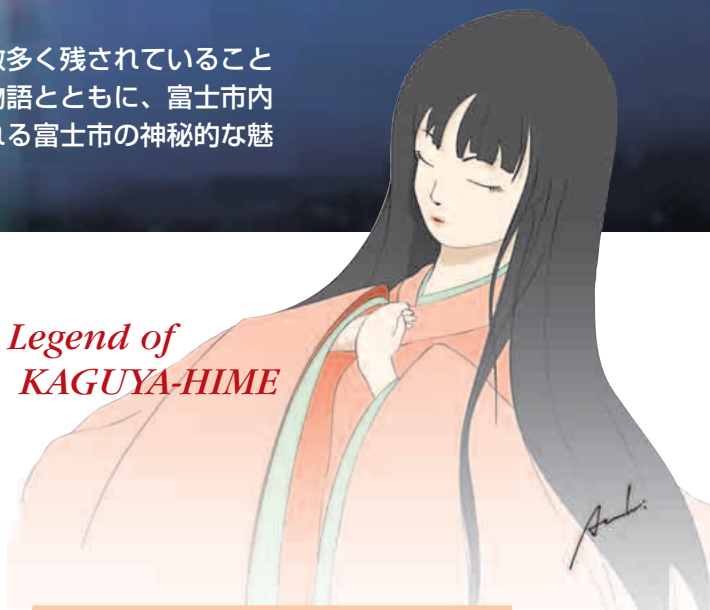
特集 クローズアップ

かぐや姫伝説

ゆかりの地をめぐる

富士市は、かぐや姫にちなんだ地名や伝説が数多く残されていることから、竹取物語発祥の地と言われています。物語とともに、富士市内に残るゆかりの地を紹介します。ロマンあふれる富士市の神秘的な魅力を感じてください。



Legend of KAGUYA-HIME

昔々、姫名(ひめな)の郷(現在の比奈)に子どものいない翁(おきな)と媼(おうな)が住んでいました。ある日、翁が裏山へ竹を取りに行くと、1本の竹の根元が光っているではありませんか。翁が竹を切ると、中には1寸(約3センチメートル)ほどの女の子がいました。翁と媼は大喜びでその女の子を大切に育てました。

竹採公園

かつて、現在の竹採公園周辺を「竹採屋敷」、その南側を「籠畑(かごはた)」と呼んでいました。籠畑は、竹取の翁が竹を切ってかぐや姫を見つけた場所で、かぐや姫が育った地と言われています。竹取の翁が竹籠をつくっていたことからこの地名になったとも伝えられています。この近くには「赫夜(かぐや)姫」という地名も残っています。

＜所在地＞比奈2085-4

女の子は美しい娘に成長し、村人たちは「かぐや姫」と呼びました。美しいかぐや姫の噂は国司の耳にも届き、国司はかぐや姫に結婚を申し込みました。一度は申し出を断ったかぐや姫ですが、国司の熱心さを受け入れ、一緒に暮らすことにしました。

囲いの道

かぐや姫が国司の住んでいた地まで通っていた道は「囲いの道(通いの道)」と言われています。またこの道は、富士山まで続いていたとされる道で、最後に姫がこの道を通って富士山に登ったとされています。

＜所在地＞吉原第三中学校正門前から見返し坂へ続く道で、吉原工業高校西付近

楽しい数年を過ごしたある日、かぐや姫は突然国司に「富士山に戻る」と言い出しました。国司や翁たちの反対を押し切り、一つの箱を残してかぐや姫は去ってしまいました。かぐや姫は、翁や媼、国司とのつらい別れに、何度も何度も振り返りながら富士山に登っていきました。

見返し坂

かぐや姫が国司や翁、媼に別れを告げて、一人で富士山に登って行くときに何度も振り返ったことから、「見返し(見返り)坂」と名づけられたと伝えられています。

＜所在地＞大阪上古墳をさらに北へ200メートル

かぐや姫との突然の別れに国司は悲しみ、姫の後を追って行きました。富士の山頂には大きな池があり、その奥には美しい宮殿がありました。国司がかぐや姫を呼ぶと、かぐや姫が現れました。しかし、姫の姿はもはや人間ではなく天女の姿で、国司は悲しみの余り、姫の残した箱を抱えて池に身を投げてしまいました。

※「皇国地誌」をもとにしたお話です。

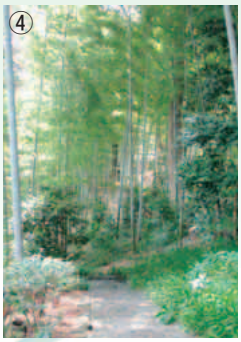
竹採公園

① **竹採公園**：竹やぶの中にあった「竹採塚」と「白隠禅師の墓」を中心に、平成3年に「竹採公園」として整備されました。「見返し坂」「神楽の庭」「国司の庭」などを再現しています。

② **白隠禅師の墓**：臨済宗中興の祖である白隠禅師は、その著書の中で無量寺の竹やぶの中に「竹採塚」があることを記しています。その白隠禅師の墓所も竹採公園内に置かれています。

③ **竹採塚**：高さ1.14メートルほどの石塚で、台部は6～7個の富士溶岩を無雑作に積み上げ、その上に縦横40センチメートルほどの卵形の石に「竹採姫」と刻んで置いてあります。建立の時期は明らかではありませんが、何百年か前に築かれたものであることは確か。妊婦がこの石をなでると美しい子どもが生まれると言われています。

④ **見返し坂**：見返し坂を再現した坂。



まだまだある！

伝説の地をめぐって 奈良時代にタイムスリップ

⑤ **かがみ石**：小栗判官満重の妻、照手姫が水鏡にした石と伝えられています。一説にはこの女性がかぐや姫であるとも言われています。
＜所在地＞原田1350-16
「かがみ石公園」

⑥ **市立博物館**：富士市に伝わる竹取物語を描いた浮世絵が所蔵されています。
＜所在地＞伝法66-2

● かぐや姫をまつる神社

⑦ **寒竹浅間神社**：寒中なのに節の長い竹が生えたのでこの名がついたと言われています。
＜所在地＞富士岡1484

⑧ **富知六所浅間神社**
＜所在地＞浅間本町5-1

● 竹取の翁をまつる神社

⑨ **滝川神社**
＜所在地＞原田1175

かぐや姫の気分になって歩いてみよう!!

竹採公園
→ 徒歩5分 → 滝川神社
→ 徒歩10分 → かがみ石公園
→ 徒歩20分 → 囲いの道

囲いの道
→ 徒歩30分 → 見返し坂